

文化ホール及び公民館 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】文化ホール・公民館

【指定管理者名】株式会社 アステム

【評価対象年度】令和3年度

【施設所管課名】産業・文化部 生涯学習課

業務内容について評価

総合文化センターは、文化ホールと公民館との複合施設であり、その役割は、市民のニーズを踏まえながら、質の高い舞台芸術を提供することと、市民自身の文化・芸術活動を育む環境を提供することにあります。

令和3年度は、芸術文化の向上、生涯学習の振興や市民の自主的な学習、活動のきっかけとなる事業の実施は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止・延期となった事業があったこともあり、49件と前年度(51件)に比べて減少しましたが、コロナ禍において、多くの集客を目的とするのではなく、新しい生活様式に対応し、創意工夫を凝らした事業を実施しました。具体的には、市制施行65周年を記念した地元の美術作家小澄源太氏のライブペインティングやワークショップを含めた展覧会、天満天神繁昌亭の客席にいるかのような気分で落語を体感できる「VR上方落語体験教室」、昨年度は動画配信でしたが、事前予約制で実施した大阪桐蔭中学校・高等学校と連携した「実験教室フェスタIN大東」、コロナ禍で困ったことを相談する先として「文化活動相談事業」、利用団体のメンバー減少を受けたサークルの新規会員募集コーナーをリニューアルした「地元の文化活動紹介事業」などを実施し、文化活動を支援しながら、市民の芸術文化の振興と教養を高め、コロナ禍による制約がある生活に潤いをもたらすことができました。

施設の管理運営について、老朽化しつつある施設・設備・備品に対し、不良箇所を保守・点検し、修繕の優先順位をつけながら、利用に支障がないよう行われていると認められます。引き続き、安全・安心にご利用いただける管理運営をお願いします。新型コロナウイルス感染症の拡大予防・安全対策については、令和2年1月下旬より実施しており、政府等が発信する最新情報を反映させたマニュアル等の改訂やセンター内に掲示した啓発文書等の更新を重ね、常に利用者の安全対策を講じている体制を整えており、施設管理者としての技量を確認することができました。

利用者満足度について評価

令和3年度末に実施した利用者アンケートにおいては、文化ホール・公民館共に、「施設・設備の使いやすさ」「施設の清掃・美観」について、「満足」「以前より良い」の回答が文化ホール70%・71%、公民館64.4%・72.8%で、前年度(文化ホール68%・70%、公民館61.9%・70.9%)より、評価が上がっており、これは新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、施設の清掃が行き届き、安心・安全にご利用いただける環境を整備していることが評価されていると考えられます。「施設全般について」「スタッフの対応・説明」について、「満足」「以前より良い」が前年度より少し減少しているため、利用者視点での改善を期待します。

開館から35年が経過し、施設の使いやすさや美観などについてもニーズ対応が厳しい状況となりますが、今後も豊富な経験とノウハウの発揮に期待します。

収支状況について評価

令和3年度単年度評価として、収支状況は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う利用者数の減少に伴い、補填料の支払及び指定管理者委託料の見直しを実施しましたが、最終的には、5,265千円の赤字となりました。次年度以降についても、新型コロナウイルス感染症の拡大予防・安全対策を図り、新しい生活様式等を取り入れた適正な施設経営・事業を展開し、利用者の満足度を高めるよう努めてください。

総合評価

緊急事態宣言を受けた臨時休館、新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用制限がありましたが、文化ホールの利用者数は、前年度(41,849人)に比べて、65,410人増加し、公民館の利用者数は、前年度(16,912人)に比べて、4,396人増加し、全体として、69,806人が増加しました。

文化ホールの利用者数の動向及び事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「大東市民文化祭」、「ニューイヤー・オペラ・ガラ・コンサート」、「大東第九コンサート」が中止となりましたが、利用者数は前年度より2.56倍となり、大幅に増加しました。市内在住の美術作家小澄源太氏を招いた展覧会・ライブペインティング・お面のワークショップや、文化庁「子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業」を活用した新たな試みとして、会場と繁昌亭の舞台をリモートで繋ぎ、VRゴーグルを装着すると目の前に繁昌亭の舞台が現れる「VR上方落語体験教室」等の新たな取り組みを実施し、コロナ禍であっても世代を問わず文化・芸術に親しめる機会を設けることができたことを評価しています。

公民館の利用者数の動向及び事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「公民館ふれあいまつり」は中止となりましたが、利用者数は徐々に回復し、前年度の1.25倍となりました。「水彩画入門教室」から水彩画サークルが誕生し、市民の文化活

動の活性化に繋げることができました。また、中央図書館と連携して「お月見だんごクッキング」の動画配信、大阪桐蔭中学校・高等学校と連携して実施した「実験教室フェスタ IN 大東」で一部同時にオンライン配信を行うなど、コロナ禍に応じた事業を展開することができました。

文化ホール事業・公民館事業ともに、適宜、国や大阪府等の通知や業種別ガイドライン等に沿った安全対策を図り、利用者の安全・安心を最優先とした新規事業を開拓している状況についても評価しています。今後も、新たなコンセプトを取り入れた取り組みや、在宅でも参加ができるような魅力的なオンライン講座等の実施をお願いします。